

学校教育目標	○「もっと知りたい」「もっとできるようになりたい」という成長への意欲を高めます。(知・体)				
	○ 互いの存在を尊重しあい、成長を支える「ほっと」する集団づくりをします。(徳)				
○ 保土ヶ谷のまちの身近な自然や歴史への関心を高め自分の育ったまちに「ずっと」愛着をもてるようにします。(公・開)					
学校概要	創立 149 周年	学校長 小川 克之	副校長 内田 宏	2 学期制	一般学級: 10 個別支援学級: 2
	児童生徒数: 259 人		主な関係校: 岩崎中学校・岩崎小学校・瀬戸ヶ谷小学校・桜台小学校		

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自分づくりに関する力」 「自分で判断し、行動ができる子」	岩崎小学校 桜台小学校 瀬戸ヶ谷小学校 保土ヶ谷小学校	自ら生活を切り拓いていく為に課題を見つけ解決しようとする主体的な児童・生徒 ----- ・ブロック内での授業研究会や授業参観等を通して、各教科の系統性や授業形態の違いを踏まえた意見交換を行う。 ・児童・生徒レベルでの小中交流を活発化させ、相互理解を図る。 ・学力状況調査を通して学力傾向や分布などを分析し、学力向上への取組に生かしていく。

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合う授業、体験豊かで探究的な学習活動、特別支援教育を充実させることで、基礎的学力の充実を図り、豊かな学力を育てます。</li> <li>・「ほっと子の時間」を柱とした教育課程の再構築と実践により、地域の自然と社会、人に学び、地域を愛し、地域に生きる子どもたちを育てます。</li> <li>・家庭、地域、幼保中との連携・交流を深め、開かれた学校づくりと社会の要請や信頼に応えた学校づくりを進めます。</li> </ul>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①実施される学習状況調査の結果なども分析して、令和2年のコロナ禍での児童の学習状況の実態や身に付させたい力などを把握して、児童にとってよりよい授業の在り方模索していく。 ②コロナ禍でも、より充実した指導方法・学習形態を目指して、教材・教具などの工夫をし、学力向上につなげていく。
豊かな心	①コロナ禍で体験的学習(人権教室など)が限られる中、道徳の学習を通じて、本当の優しさ、協力や責任の大切さの理解を図る。 ②SDGs、3Rなどの学習を通して、実生活に生かしていけるような道徳の授業を展開する。
健やかな体	①コロナ禍でもできる運動や集会を、道具や行い方を工夫しながら計画し、それらを通して、通年、体力づくりに取り組む。 ②手洗いうがい、教室の換気など、委員会や6年生を中心に全校に発信し、日々の習慣や教室環境を意識して保健指導を行う。
地域連携	①コロナ禍でもできる活動や方法を模索し、生活科・総合的な学習を軸に地域の材の開発、活用をはかり、地域とのつながりを結ぶ。 ②地域防災など地域と学校が協働して行うことで、地域の方が学校に関わりを持つ機会を増やし、また子どもたちが地域の一員としての自覚を持てるようにする。
特別支援	①各学級に在籍する配慮児童の特性を定期的に情報交換し、指導や支援の仕方を共有する。また、学年やブロック等、日常的に授業を観察し、教職員全体で児童理解を図っていく。 ②特別支援教育における、研修等を行い見識を高めるとともに、学校行事等で十分に配慮をしながら教育活動を行う。 ③学校カウンセラーやSSWと連携し、支援が必要な児童について複数の目で見守る体制を整える。
読書活動	①朝読書のカリキュラムをもとに、学校司書を中心として、保護者ボランティアや地域ボランティアと協力し、図書室環境や広場にある本棚の改善や本に親しむ活動を推進する。 ②学校司書と司書教諭の定期的な打ち合わせを継続し、調べ学習、並行読書、単元に関わる読み聞かせなど、より多くの場面で授業に関われるよう連携を図るとともに、自己肯定感や自尊感情を養う。
特別活動	①係活動、委員会活動の充実を図り、仕事をやりきることを通して、自己肯定感や自尊感情を養う。
いじめへの対応	①児童支援専任を中心に、きめ細かく各学級の状況を把握し、YPアセスメント等も活用しながら、学校全体でいじめの早期発見、早期対応に努め、いじめの深刻化を防止する。 ②防犯教室やサイバー教室等を3年生から行うことで、規範意識を育てるとともに、具体的ないじめのケースを知らせることで未然防止にもつなげる。また、積極的に保護者へも発信していく。
人材育成・組織運営(働き方改革)	①行事の提案を事前に教務会に提出し、再検討したものを全体の職員会議で提案することができるシステムを今年度も継続する。また、行事の役割分担では、一部に仕事が集中しないように人員を再配置する。 ②情報の共有化を図るとともに、打ち合わせや会議の精選、簡略化を行い、働き方改革につなげる。 ③子どものため、教師力向上になる実践的な研修を行う。